

普及活動情勢報告（令和6年9月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

反収向上に向けて頑張ろう ～「土佐甘とう」生産者交流会～



産地視察（津野町生産者が説明）

8月22日、JA高知県が津野町で甘長トウガラシの産地視察と生産者交流会を開催し、管内生産者13人、県内他産地生産者など関係者を含めて合計40人程が参加しました。

農業改良普及課は、交流会で青色不織布による高温障害低減効果の実証結果について報告を行い、生産者からは「高温対策に取組み、より収量を高める方法を考えていきたい」といった声がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、甘長トウガラシの収量向上を目指して技術指導を行います。

ミョウガ生産者の経営目標達成に向けて ～経営についての面談の実施～



今後の経営方針について助言する普及指導員

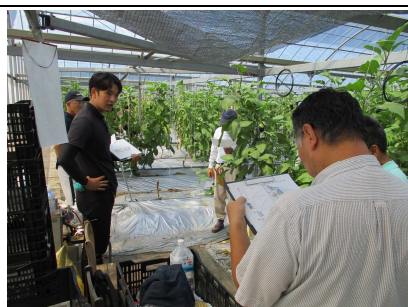
9月3日、梶原町と津野町で、ミョウガ生産者（2戸）を対象に経営についての面談を実施しました。

農業改良普及課は、出荷・販売実績のデータをもとに、生産者が前年度に立てた経営目標の達成度を確認した後、今作で必要となる収入額を確認し、今後の経営方針について助言しました。

生産者からは「規模拡大について意識はしていたが、今から考える必要があることがわかった」、「所得確保に向けて今後も助言をお願いしたい」などの話がありました。

農業改良普及課は、今後も巡回を継続し、生産者が目標を達成できるよう助言などを行います。

夏秋米ナスで青枯病発生を防ぐために ～次作に向けた青枯病対策の検討～



青枯病発生状況について情報共有する普及指導員

9月5日、津野町米ナスほ場で、生産者1人、薬剤メーカー、関係機関職員で、次作に向けた土壌消毒方法の検討を行いました。

農業改良普及課は、2～3月に実施した低濃度エタノール土壌還元処理とダゾメット剤土壌くん蒸処理を組み合わせた土壌消毒処理の実証ほについて、処理後の青枯病発生状況を報告し、十分な効果が得られていないことを共有しました。

生産者からは、「なかなか青枯病を抑えることができないが、自分にできることは引き続き行っていきたい」との声がありました。

農業改良普及課は引き続き、生産者とともに、米ナスの青枯病対策の検討を続けます。

地域計画の策定に向けて ～須崎市吾桑地区の座談会～



生産者の意見を引き出す普及指導員

9月6日、須崎市が地域計画の策定に向けた座談会を吾桑公民会で開催し、地域の生産者、関係機関職員が11人参加しました。

農業改良普及課は、事前に役割分担や地図への記載方法について提案や助言を行い、座談会では生産者の意見を引き出して目標地図に書き込む作業を支援しました。

参加者の「自分は営農を続ける」、「地図で見ると後継者に引き継がれている農地もある」といった意見を目標地図に落とし込むことができました。

今後、須崎市は4地区の座談会を計画しており、農業改良普及課は地域計画策定を支援していきます。

ミョウガ環境データの分析手法について ～データ駆動型農業勉強会～



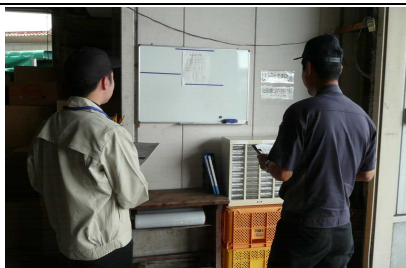
データ分析手法について検討する普及指導員

9月9日、須崎総合庁舎で、ミョウガ生産者の収量アップを目的に、JA土佐くろしおのミョウガ担当者2人、分析アドバイザー及び専門技術員を交えて勉強会を開催しました。

会では、農業改良普及課が行ったミョウガ生産者のデータの分析結果をもとに意見交換を行いました。JA担当者からは、「昨年度と今年度の温度変化の違いが収量にどう影響しているのか示せないか」など、今後のデータ活用のヒントが出されました。

今後、農業改良普及課は、R6年度とR5年度の収量と気象の違いに焦点を当てて分析を行い、生産者へのフィードバックを目指します。

JA土佐くろしお集出荷場をGAP点検！ ～4集出荷場の合同巡回～



営農指導員とともに点検する普及指導員

9月25日に、JA土佐くろしおの4集出荷場を、営農指導員2人と農業改良普及課職員3人とで巡回し、出荷工程の作業環境や衛生管理などを点検しました。

点検により、作業場の照明をLEDに計画的に切替えていることや、出荷用段ボール箱、梱包資材を適正に保管できていること、前回の指摘事項が改善されていることなどが確認できました。

農業改良普及課は、JA担当者とともにGAP点検を継続して行い、課題や改善案を共有し、適正な出荷環境の維持・改善ができるように支援していきます。